

IV 鹿児島県鹿児島市研究班(鹿児島チーム)報告

1. 研究班エリアの概況と特徴

鹿児島市は人口 60 万人、中核市として鹿児島県のさまざまな機能が集中している都市である。市内主要部には公共交通機関として路面電車ならびに路線バスが充実しているが、郊外となると極端に交通の便が悪くなる。市内には6つの盲・ろう・養護（特別支援）学校があり、養護学校によっては、在籍 340 名で大型スクールバスを7台ほど活用している学校もある。

60 万人の人口規模において、現在、市役所本庁をのぞき 9 カ所の支所があり、保健センターが 10 箇所設置されている。鹿児島市を 5 つのブロックに分けて設置されている各保健センターでは、発達につまずきのある子に対する早期支援の必要性から、発達相談会を年 3 回程度実施している。発達相談会の構成メンバーは、小児科医師を中心に、心理士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、などの療育の専門家はもとより、今後の就学を見据えた上で、特別支援学校のコーディネーター（地域支援担当者）も相談会にて個別相談に携わっている。この相談会は、市町村の保健事業に位置づけられている乳幼児健康診査にて言葉の遅れや落ち着きのなさなどの発達のつまずきが疑われた子どもに対しての、二次スクリーニングの役割を担っている。この発達相談会にて発達の遅れが認められた子ども達は、児童デイサービスを紹介され、それぞれの発達課題にあわせた療育プログラムを受けることとなる。保健事業を通じて児童デイサービスに通っている子ども達に関しては、保健師が定期的に家庭訪問するなどして、フォローアップがなされている。

また、鹿児島市には、県立県営の児童相談所、同発達障害者支援センターがあることで、保護者自身が子どもの発達について不安がある場合、上記の健診や相談会を受ける以前に自らで受診をするケースが多く見られる。この場合は児童相談所等での受診結果が各保健センターに伝達されることは少なく、保健師が把握したうえでのフォローアップには至っていないのが現状である。児童相談所等は保健センターから結果通知の依頼があった場合に、情報を文書にて伝達している。

さて、こうした就学前の早期総合支援体制の一貫として機能することが期待される相談支援事業であるが、鹿児島市では現在、次の 7 箇所に委託実施されている。

- ①社会福祉法人 麦の芽福祉会 むぎのめ総合相談支援センター
- ②社会福祉法人 ゆうかり サービスセンター「くればす」
- ③社会福祉法人 慶生会 パソ松ヶ尾館
- ④医療法人 陽善会 地域活動支援センター「かけはし」
- ⑤財団法人 慈愛会 地域活動支援センター「ひだまり」
- ⑥医療法人 寛容会 地域活動支援センター「ソーバーハウス」
- ⑦社会福祉法人 くすの木会 地域活動支援センター「サポートやすらぎ」

(①～③⇒相談支援委託：入札による ④～⑦⇒地域活動支援センター I 型)

2006 年度から、発達障害に関する協議会、並びに特別支援連携協議会は稼動し始めている。一方、2007 年度から鹿児島市障害者自立支援協議会の設置に向けての準備会が開催され、2008 年度から設立された。そのプロセスにおいて、鹿児島県主催の特別アドバイザー事業による、滋賀県からのアドバイザー派遣を複数回してもらいつつ、今後の見通しについても検討されている。

しかしながら、市の福祉計画策定プロセスのチェックを協議会内ですることになる等、協議会の要となるべき個別支援会議の開催は皆無であり、その必要性については浸透していない。

2. 平成 20 年度研究の目的・方法・手続き

(1) 目的の設定

上述したように中核市である鹿児島市は相対的に福祉・教育・医療等の社会資源は充実しているかに見えるが、地域自立支援協議会に象徴されるネットワークづくりは着手したばかりであり、特にその推進装置となる個別支援会議は開催できずにきていた。そこで、本研究への参画を鹿児島市における相談支援並びに就学における教育と福祉の連携のためのステップアップ事業と位置づけ取り組みを行うこととした。具体的な目標としては就学支援に焦点化した個別支援会議の開催により、保護者・本人にとって<納得の就学>を実現し、さらに就学支援から「修学」支援への引継ぎに生きる<支援情報の共有>をはかること、と設定した。

(2) 方法及び手続き

鹿児島市内の Y 保育園に在籍する 2 名（のんた君、けんた君＝仮名）の年長児を対象とし、それぞれの就学先、関係機関等とのつながりを進めながら、保護者の参加を得ての個別支援会議を開催することとした。ステップアップ事業としての評価の視点は次年度における個別支援会議開催の了解を関係者から得られるか否か、とした。

なお、2 名の年長児を研究対象事例とすることについては保育園園長及び保育担当者を通じて保護者の了解と承諾を得ている。それぞれのプロフィール概要は次を参照されたい。

<のんた君(広汎性発達障害)>

こだわりと感情のコントロールが課題であるが、乳児期に負った左半身やけどの移植手術をいつ行うかも喫緊の課題となっている。療育支援を受託する病院以外の医師が介入しにくく、結果として就学相談に医師が入れないという状況が続いている。

<けんた君(聴覚障害及び広汎性発達障害の疑い)>

複数の療育機関に通ってきたが、保護者のあきらめ感が強く、すべて中途半端に終わっている。補聴器も、聾学校経験を有する養護学校教員の指摘があったことから、つい最近つけ始めたという経緯がある。保育園では広汎性発達障害を疑っているが、保護者が既に投げ気味であるため、障害の判定に向けた動きをつくること自体が難しい。

以下に今年度の具体的な取り組み日程と内容を掲げる。

【具体的な取り組み】

日 時	内 容
平成 20 年 8 月 22 日	趣旨説明・ケース選定
平成 20 年 10 月 3 日	WE-Collaboration IN かがしま
平成 20 年 12 月 3 日	第一回 個別支援会議 (のんた・けんた)

平成 21 年 1 月 14 日	第二回 個別支援会議（けんた）
平成 21 年 1 月 16 日	けんた 補足会議（けんた主治医）
平成 21 年 1 月 19 日	けんた 補足会議（けんた主治医）
平成 21 年 1 月 31 日	けんた 補足会議（けんた母親）
平成 21 年 2 月 3 日	第三回 個別支援会議（のんた）
平成 21 年 2 月 26 日	第四回 個別支援会議（けんた）
平成 21 年 4 月	（予定） のんた・けんた フォローアップ会議

3、個別支援会議の経過と概要

(1) 第一回個別支援会議

平成 20 年 12 月 3 日(水) 17:30～20:00

<出席者>

医療 ① 児童相談所 発達障害の専門医

行政 ② 市役所 福祉担当職員

③ 市役所 福祉担当職員

④ 市役所 支所 福祉担当

⑤ 教育委員会 主事

教育 ⑥ K養護学校 教諭

⑦ K養護学校 教諭

⑧ S養護学校 教諭

福祉 ⑨ 相談支援受託事業所 地区担当

⑩ 療育等支援事業受託事業所 コーディネーター

⑪ N園 のんた君の通っている児童デイサービス事業所 職員

⑫ Y保育園 園長

⑬ Y保育園 主任

⑭ Y保育園 地域子育て支援センター・子育て支援担当

⑮ 民間の発達相談センター 発達障害の専門家

⑯ 相談支援受託事業所(基幹) 相談支援専門員

⑰ 研究会事務局

⑱ 研究会事務局

※ 加瀬 進 研究代表者にも立ち会っていただき、アドバイスをいただく。

第一回個別支援会議*まとめ*

(1)大きなポイントは？ →ニーズの整理と確認

小学校に入学した後の通学（経路や方法）が心配

(2)ツールがない →具体的な案の提示

とりあえず近くの福祉系大学に行って相談してみようか？（ボランティアの活用）

(3)支援会議に望む前の事前準備が不十分。

ご家族に会議の趣旨などを詳しく説明してもらい、共通理解は大切。今回の支援会議は規模が大きすぎた。イメージがわからないところもあったと思うが、個別支援会議は始まったばかり。積み重なっていくと「のんた君だけの問題ではないよ」というのがわかっていくかも。

(2)第二回個別支援会議

平成 21 年 1 月 14 日(水) 17：30～19：30

<出席者>

医療 ① 児童相談所 発達障害の専門医

行政 ② 市役所 福祉担当職員

③ 市役所 福祉担当職員

④ 市役所 支所 福祉担当職員

教育 ⑤ K養護学校 教諭

⑥ K養護学校 教諭

⑦ S養護学校 教諭

福祉 ⑧ 療育等支援事業受託事業所 コーディネーター

⑨ W園 けんたくんの通っている児童デイサービス事業所 職員

⑩ Y保育園 園長

⑪ Y保育園 主任

⑫ Y保育園 地域子育て支援センター・子育て支援担当

⑬ 民間の発達相談センター 発達障害の専門家

⑭ 相談支援受託事業所(基幹) 相談支援専門員

⑮ 研究会事務局

⑯ 研究会事務局

第二回個別支援会議*まとめ*

(1) 特別支援学校の再編時期ということで、再編後の近隣の特別支援学校のほうが、近くていいが、新設同様であり、不安もある。学校の選択については、選択肢を提示できるほど、情報がそろっていない。

保護者のニーズについて再確認をおこなう。

(2) かかりつけ医に参加してもらうことで、医療、発育面の情報をフォローアップしてもらうことができる。事務局で、協力依頼をする。

(3) 次回は、かかりつけ医、就学先、療育機関、保育園の各機関での個別支援計画ならびに支援の実態を持ち寄り、「つなぎ」の支援会議を開催予定。

(3) 第三回個別支援会議

平成 21 年 2 月 3 日(火) 17:15~19:00

<出席者>

のんた君のご両親

医療 ① 児童相談所 発達障害の専門医

行政 ② 市役所 福祉担当職員

③ 市役所 福祉担当職員

④ 教育委員会 主事

教育 ⑤ T小学校

福祉 ⑥ Y保育園 園長

⑦ Y保育園 主任

⑧ Y保育園 地域子育て支援センター・子育て支援担当

⑨ 相談支援受託事業所(基幹) 相談支援専門員

⑩ 研究会事務局

⑪ 研究会事務局

第三回個別支援会議*まとめ*

(1) 今後の支援計画やフォローアップについて、中心となって進めていくキーパーソンを決める必要があるだろう。

(2) ご両親から、「不安も多いが、多くの関係者に支えてもらい感謝している」との声をいただいた。

第三回個別支援会議議事録（抜粋）

● T小学校の先生へY 保育園の園長からのんた君の事例の説明 ●

親御さんの今の一番の心配事…

- ・「通学」が今のところ一番心配。
- ・就学相談で「特別支援学級入級が望ましい」と言われた。夫婦で、のんた君を特別支援学級か通常学級に入れるか意見が食い違っている。

- ・1歳時、広範囲のやけどで病院にかかる。
- ・母親は、「やけどについて人からどう見られるのか」「のんたがやけどの跡のことでいじめられるのではないか」という心配がある。
- ・2歳1か月、児童相談所に相談。言語発達遅滞と診断される。
- ・3歳頃、広汎性発達障害と児童相談所で診断される。（言葉が出ない。数字に興味を示す。名前を呼んでも返事をしない。）
- ・Y 保育園入園前にH学園（障害児通園施設）も勧められた。定員がいっぱいだったこと、母親が見学に行ったところ思ったよりも重度な子がいてのんた君はここに合うだろうか躊躇したことで、Y 保育園へ入園。
- ・Y 保育園入園後、とても成長が見られた。（言葉が増える。対人意識が芽生える。等）
- ・新しいでき事を経験する際、見通しが立たなくなることで、混乱やこだわりが多く出た。
→就学時の移行支援が大切だと感じた。

今回の会議には親御さんも出席するという話から…（両親不在の場にて）

②…親御さんにはどういう話を？

⑩…「みんなが味方ですよ」ということを伝えたい。ここにいるメンバーで情報交換、情報共有することで、のんた君の状態像を知り支援の方向性と具体案を考える、ということ伝えたい。

17:50 のんた君両親入室

・出席者の自己紹介

②…まずはご両親、ご本人がどういう考え、今後の支援への希望を持っているかをお聞きした上で、みんなの話があった方がいいかも。

⑩…就学に向けての不安な点、疑問点のお話があったらお願い。

母 …まずは、通学の件が不安。距離が長くて時間がかかる。車が一番怖い。私自身が標識、信号を教えるはいるが、他のものが目に入ったときにバーっと走ってしまう。周りが目に入っていない。共働きで親が送り迎えしないといけないというのが難しい。昨年10月、療育手帳が非該当になってしまった。手帳があったらサポートしてもらおうというつもりでいた。手帳がないことで、市の方から支援をしてもらえないことへの不安がある。うちだけではなく、手帳に該当されていないで、手帳を持っていないで困っている子供さんたちが他にもいるかも。そういうサービスはないのか？

③…今のところ児童デイしかない。手帳を持っている人でも通学は大きな課題。

母 …逆にそういう方はどうやっているのか教えてほしい。

③…学校まで親が送り迎えしたり、養護学校のバスをバス停まで迎えに行ったり。

母 …共働きの人は？

③…ご家族でうまくいっているケースは市にも入ってこないのでは、情報が少ない状態。あれば、こちらでも勉強になるなど思っている次第。

⑤…T小学校の現状の説明。朝は初めのうちは母と来ている子も多かった。徐々に一人で通学できるようになる感じ。同じ時間帯にたくさんの子どもが行くので、お兄ちゃんたちもいる。要所要所にボランティアのおじいさん、おばあさんたちが声掛けをしたりしてくれるので、スムーズに登校できるようになっている。帰りは1年生の子は初めは集団下校。同じコースごとに帰していく。児童クラブに行く子は、四月までは児童クラブの先生たちが迎えに来る。それ以降は友達同士で。今までいろんなものに目を向けて不安という子もいた。児童クラブの先生が1ヶ月間は迎えにきて、その後担任の先生が送っていたが、友達ができると一緒に帰ったり。最初は担任の先生が「今帰った」というのを電話していたが、道を覚えると自分でサーッと帰って行っている。

母 …個人差ですね。1ヶ月間で友達ができるか、道を覚えるかもわからない。近所の子供がどこにいるのかもわからない。いても、来年からは中学生にあがるような子くらいしか知らない。

⑤…子供によるが、先生たちも一生懸命。児童クラブの先生、担任、特別支援学級の先生たち、みんなで連携してやろうとしているつもり。まだ足りないところもあるかもしれないが、その都度教えていただくと、私たちも勉強になるし、ありがたい。みんなで支えていけたらいいなと思っている。

母 …ボランティアの方は…

⑤…総勢100人の通学保護員の方がいらっしゃる。

母 …要所要所にいるとおっしゃっていたが、信号とかにいるのは知っているが、信号から信号までの間はどうするの？うちの子は友達がいても振り払って出ていくかも。ほんとに些細なことかもしれないがその点も不安。

母 …朝は送ることができても帰りが不安。児童クラブまで迎えに行くということはできるかもしれないが。

⑤…朝が心配だったら車で送り迎えもいいかも。

母 …学校側に許可を取ろうと思っている。以前事務室では許可がもらえるか分からないと言われた。

⑤…大丈夫だと思う。

母 …皮膚のことで、二回目の皮膚移植する時のことを考えて学校に相談に行った。

⑤…学校に慣れていって、徐々にやっていけたら。入学してみないとわからないので。

母 …通学保護員の中で、のんたのことをサポートしてくれるのを市の方から出してくれるサービスがあったらいいかもと思っていた。手帳があったら…。

③…通学のことも市も考えつつあるかも。今年は自立支援法の改正の時期。国ができたなら一番いいのだが。市単独でやるというのはいろいろな案件があって難しい。

- ①…手帳は今まで IQ を基準にして決められ、IQ が高いと落とされてきた。国が発達障害を知的障害として扱うように言われている。もし知的なものがなければ精神障害として扱うように言われている。こうなると、精神保健福祉センターから交付されることになる？もっとはっきりしたことが決まったらアナウンスしていきたい。いつから使えるかというのは今の段階では言えない。現状としては他のを利用してもらうしかない。おそらく 2 月中にはお伝えできないかも。
- ②…現状ではのんた君に使えるサポートでは難しい。学校の方で具体的にできること、通学の経路でできること、通学保護員の地図での位置の確認など、学校とご両親と相談しながら通学の支援を立てていき、入学後の様子を見た上で、今後のことを決めるということになるのでは？そういう上で、使えるサービスがあればいいかもだが。
- ⑥…通学保護員のどなたかが行く途中でサポートしてくれるというのは学校からお願いできる？
- ⑤…学校で相談してみる。
- ⑥…のんた君は今の保育園での散歩では集団では大丈夫。ピューッと出るのもない。集団登校の中でも大人が一人いれば、「それ危ないよ」とか言えるかも。
- 父 …それが不思議。家族といると振り払っていく。心配。
- ⑥…子どもはよくわかる。「この場ではこうしないと僕は守ってもらえない」とか。練習をすると、散歩の 15 分は歩けるようになっていた。もしかしたら、両親といると甘えてしまい、「僕が行っても追いかけてくれる」と思っているのかも。学校の中で慣れていくのは可能ではないか。最初は子供だけではなく、大人の方がのんた君にきちんと話してくれるようにしてもらえると安心。
- ⑤…入学して 1 週間は担任がついていく。確実に帰ってもらえるように。電話とかで確認をとりながら。
- ⑥…のんた君と一緒に通学の練習をしてみている、気になったポイントとかある？
- 両親…側溝のふた。側溝のふたばかり歩いている。
- 父 …今の話を聞いていると、親といる時と違うから…
- 母 …集団登校、1~2 週間だが…どこで慣れるか分からない。
- ⑤…子供に合わせてできるだけやっていく。
- 母 …他のお子さんもいるから、うちの子だけでなく、平等にやってもらいたいというのものもある。
- ⑤…担任が抱え込まない体制になっているので、連携していきたい。
- ①…パーッと飛び出していくのがわかっていると、支援していきやすいかも。両親が通学の練習の際に、パターンを見つけて、それをみんながわかっていると、支援してくれる人も支援しやすくなるかも。
- 母 …あと、動物。空に飛んでいる飛行機。
- ②…子どもはみんなそうですよね。(みんなで笑う)
- 母 …学校はのんたの足で、手ぶらで 30 分弱のところ。
- ⑤…お母さんが心配されているのもわかるかも。
- 母 …通学に時間がかかる。
- ⑤…登下校の仕方をみんなに学習していくのも大切かも。
- 母 …以前子どもたちの登下校を見ていたら、通学の裏道はみんな広がって、投げたりとかして

いた。いじめはないと聞いていたが、公園でいじめを見てしまって不安が増した。まして、うちの子は皮膚移植の跡があるので、ひどい扱いを受けないか心配。「お前の皮膚汚い」とか言われてしまうのではないか。ある時、自分が見ていると、そういう様子がみえた。仲良く帰っている子もいるし、いろんな子がいる。T小学校のお母さんに聞くと、発達が遅れている子はおちよくられたりとか多少あるみたい。さらに不安。人数が多すぎるのもあるが…何とも言えないし…

⑤…できるだけ対応していきたい。何かあったら教えてほしい。

母 …裏の小道とかにもポイントを決めて通学保護員を置いてもらえると安心。裏の小道には通学保護員いない気がする。そういったところにも置いてほしい。

①…のんた君は知的には正常域で、空気を読まずに少し言ってしまうたり、自分の意見が言えないなど、そういうところもあるので、いじめを誘発してしまう可能性もあるかも。

母 …二次障害がゆくゆく起きてしまうのではないかと心配。中学、高校、移植あと、などにパニックやフラッシュバックが起きてしまうこともないとは言い切れない。

⑥…近くで誰かお友達がいるといいですね。

母 …交友がないのでわからない。子どもがどこにいるかもわからない。近所には大体中高生。

⑥…最初の集団登校でわかると思う。しかも、集団登校でグルーピングされるから友達できやすいかも。一番家から近い子どもとの関係性を見てもらってもいいかも。

⑤…わかりました。

母 …そういうサポートがあれば安心できるが。手帳がない。

⑥…「広汎性…」という名前だけが残ってしまって、現状で出せるもの（サービス）がなくなってしまうもねえ。

⑩…手帳がなくても、学校側でいろいろやってもらえるというのがわかった。T小学校が市内の学校の中でも一生懸命やってもらえているというのは聞いていた。

母 …それは私も承知のうえ。

⑤…頑張ります。

⑥…お散歩と通学の練習との違いは、目的がはっきりしているということ。あの公園まで行く、とか。事前に彼の中で目的が入っていると散歩みたいにある程度行けるかも。今いくら「学校に4月から行くんですよ」と言われ、お母さんと練習しても、のんた君はお母さんと楽しいお散歩と思っているかも。学校が始まると彼の気持ちも変わるかも。

母 …最近のんたは「小学校に行かない」「ランドセルからわない（背負わない）」と家で言っている。本当の気持ちなのか、保育園で周りが言っているからなのかわからない。それがまた不安になる。

⑥…担当の先生にどんな話を子ども達にしているのか聞いてみる。

⑧…その発言から、のんた君は少なくとも学校に興味があることはわかる。

母 …前はすごく行きたがっていた。最近行きたくないと言い始めた。

⑥…職員からも「なんで？」とのんた君に聞いてみてもいい。学校に対してポジティブになれるように声掛けをしてみてもいい。小学校に見学にも行っているのか？

父 …行っている。人数の多さにビビっていた。

②…障害のない子も同じようにビビっています。でも学校に行けば、いつのまにか馴染んでいた。

それでも親としての心配はあった。誰かがずっとついてくれるとか、親が自分でついていく、とかしない限り、心配は完全にはなくなる。少しでも不安を減らすために、具体的に先生と、できる部分とできない部分を1つずつ挙げて話し合っていた方がいい。不安解消につながる。

母 …実際やってみないとわからない。

②…誰にもわからない。幸い、早めに学校の先生と連絡を取れるようになったし。

母 …異動はどうなっている？ベテランのよくわかっている先生がいなくなったら、とか不安。

⑤…誰がやってもできるように、と共通理解を深めている。

母 …たとえば全くわからない新人の先生が来たりしたら、という不安もある。

⑤…できるだけないように、週一回特別支援の先生たちでどうすればいいか検討したり、共通理解を深めている。

母 …もし異動があったりしたら…

⑤…できるだけないようにいろいろな方策をとっている。

④…「すこやかファイル」(※1)、今一生懸命作っているところ。相談支援ファイルと名前が変わっていく予定。4月からお配りできるように頑張っていく。今はまだ、学校の人事はわからない。でもどなたが担任の先生になっても大丈夫なように、事例研究会などが各学校で行われていると思う。

⑩…まだ間に合わない？サンプルでもいただいて活用できないか？

④…今サンプルを使っていたらいる人もいる。印刷をしているところなので、ご希望があれば。

②…今まではこういった連携はなかった。今は、引き続いて支援ができるように、という大きな流れが一般的にある。のんた君だけに限らず、みんなで情報を共有して支援していこうというのがある。いろいろな不安があるかもしれないが(例えばシステムとしてはあるのかもしれないがうちの子には使えるのか、とか)、具体的に心配のタネを見つけていって、つぶしていくというのが不安を減らしていけると思う。今は通学のことだというのが、そういった作業をひとつずつやっていたらいい。

④…就学はどの子どもさんも不安になる。環境が変わるので。しかし大きい視点で見ただければ、成長に必要なもの、というポジティブな見方をしてもらいたい。子どもたちの成長の力を信じて。

⑩…ここみんなは味方。次の世代のためにも先輩のお母さんになってもらいたい。具体的に一つずつつぶしていって、まずは通学がどうなったかということについてまとめてフォローアップ会議をしていきたい。時間がかかるかもしれないが、何らかの影響になると思う。一家族の不安にしておかない。協力してほしい。

⑩…児童クラブについては？

母 …今手続きを行おうと、証明をもらってクラブに入れようとは思っている。会社を辞めて付き添おうとか思ったが、会社が辞めさせてくれない。

⑩…学校としてもフォローしてもらえる？

⑤…学校とは別。

母 …噂として聞いたが、学校として預かってくれると聞いたのだが、それはない？

⑤…T小学校としてはない。

母 …学校に入るにあたって、夫婦で意見が分かれるのだが、特支学級に席を置くか、通常学級に置くか。市の就学支援判定で、特支学級入級が望ましいと言われた。

父 …食い違っているというより、通常学級で伸びるのでは？という可能性があるのではと思っている。実際Y保育園に入って伸びたし、入って見ないとわからないので、どれが正しいかわからないが…

①…一般的には9歳までにはスキルアップができる方が望ましい。比較的早い時期から対応できた方がいい。ただ、どっちがいいかは教育の現場からいろいろ聞いた方がいい。親御さんたちの話からは特別支援学級の方が幅があっていいかもと思った。⑤先生に聞いた方がいいかも。

④…どこに軸を置くかが重要。学校と幼稚園の違いもある。幼稚園は遊びが主で、学校は時間の決まりが厳しかったり、やっぱりいろいろ幼稚園とは違う。大きな集団で「新しい環境で落ち着かない」なら、小さな集団でやっていて、大きな集団で音楽とかを発揮していけたらいい。

⑩…途中から入級とかできる？

④…子どもの状態で特別支援対応がいらなくなったら、通常学級に入るということもある。子ども次第。

⑤…T小学校の特支学級では子に応じた対応ができるというのがいいかなと思っている。細かい配慮をしながら子どもに対応する。連絡帳も、通常では30人のうちの一人としてバーっと書くが、特支学級は細かい。特支学級にいる子は少しずつ交流をさせている。最初に行けなかった子も行けるようになった。いきなり行かせるわけでは無く、共通理解をした上で、初めは支援員をつける。親御さんと相談の上、教育相談で来年度どうするかとか話し合いをいつもしている。その都度子どもたちの成長を見ながらやっていけると…

①…知的な面より空気読めない、言いたいと言えないということなどについて配慮が大切。知的な面の方が周りの目がいきやすいかもしれないが、二次障害が見受けることもあるので、そういった面での配慮が必要かな。

⑩…また今度、今回のフルメンバーでなくても、通学のことあたりにしぼって話をしていきたい。

⑤…何か心配していることがあればいつでもどうぞ。

⑩…特支学級にするか、通常学級にするか決めるリミットはいつ？

④・⑤…遅くて3月末まででもいいが、入学の準備もあるので、早ければ早い方がいい。

②…今日お話を聞かれた上で、メリットとかも聞かれたので、両親で話し合った方がいい。今まで、情報がなかったというのもあったと思うので。学校側としては早い方がいいというだけで、今日ここで決めないといけないというわけではない。

①…療育手帳は今後変わっていくと思う。その都度情報をお伝えしていこうと思っている。それで、これをうまく利用して行って、のんた君が楽しく学校行けるといい。

※1…教育委員会が中心になって進めている、情報共有、支援ファイル

子どもの生育歴や、現在の様子、関わってる機関名、支援計画、などの情報が書かれるようになっており、保護者が管理する。

(4) 第四回個別支援会議

平成 21 年 2 月 26 日(木) 17:30~19:00

<出席者>

- 医療 ① T 病院 けんたくんのかかりつけ医
② H 病院 けんたくんの通っている病院 作業療法士
- 行政 ③ 市役所 福祉担当職員
④ 市役所 支所 福祉担当職員
- 教育 ⑤ T 養護学校 教諭
- 福祉 ⑥ W 園 けんたくんの通っている児童デイサービス事業所 職員
⑦ Y 保育園 主任
⑧ Y 保育園 地域子育て支援センター・子育て支援担当
⑨ 民間の発達相談センター 発達障害の専門家
⑩ 相談支援受託事業所(基幹) 相談支援専門員
⑪ 研究会事務局

第四回個別支援会議*まとめ*

(1) 卒園後の「つながり」を意識した会議とすることを確認。T 養護学校における状態像を想定しながらの話ができ、具体的な課題を共有、もしくは解決することができた。

(2) 就学への「つながり」を意識した個別会議を、ここまで丁寧に重ねたことがなかった。次年度以降も、縦にも横にもつながりつづけていこう、ということが、会議参加者とも確認できた。

第四回個別支援会議議事録（抜粋）

⑦・・・(けんたくんの近況報告) Y 保育園主任保育師より保育園での様子について報告がある。これまでの保育園での生活の中から見える、けんたくんの特徴や行動の特性について説明がある。

各関係機関からのけんたくんに関する情報等についての発表（要旨）

②・・・生れてからこれまで見てきたなかで、かなり成長が見られる。現在は絵カードを用いたペクス(P E C S)を活用しているところである。かなりの能力を持っていて、今後の成長が期待される。これからも関わり続けることになるので連携を取っていきたい。

⑤・・・養護学校では重複クラスでの受け入れが決まっている。バス通学を希望されているため、対応できるか心配している。また、学校では郊外活動や運動会、プールなど本人が身体的なハンデもあるため、特別な配慮が必要ではないかと考えているので、関係者からの意見をいただきたい。補聴器については原則学校では必ず使用することとすることが良いのではないかと、助言もある。

学校でのこれからの生活について、各機関からの助言。

- ①・・・1歳前からの本人を担当してきたなかで、これまで成長したことに驚きがある。歩くことも困難であったけんたくんが、最近では、アナウンスを聞いて診察室まで入り、椅子に座るまでに成長している。療育機関をはじめ、皆さんのおかげで「いい育ち」ができていると感じている。今後も医療の立場からかかわって行きたいと考えている。また、けんたくんのケースでは家族、特に祖母の協力が大きく、入学後もその傾向であると考えられる。今後はそのことも課題になるかもしれない。
- ⑥・・・療育時でのけんたくんの様子について報告がある。周囲の状況理解もかなりできてきていて、自分でできることがたくさんあることなどを報告。補聴器については、わかば園ではきちんと使用ができていること、チャイルドシートも上手に活用ができているとのことである。
- ④・・・養護学校に入り、福祉サービスの利用が必要になってくることが考えられるので、学童保育、日中一時支援、ショートステイなどの利用についての情報提供や必要な支援を考えていきたい。
- ③・・・今後もこのような会議を経て、支援が必要な方が福祉サービスの利用ができるように連携を取りたいと考えている。

その他、養護学校から座位保持椅子、運動会参加時での配慮など具体的な話題もあり、「けんたくんは、うまくさぼれる子でもある」との回答もある。けんたくんの今後について、細かな対応まで話し合う機会となった。

今回の個別支援会議により、T 養護学校からは、入学説明会前にこのような機会があり、けんたくんに関する様々な情報を各関係機関から具体的に提供していただくことができ、準備をしてけんたくんを受け入れられることが出来ることがたいへんありがたいとの感想があった。また、今後は市教育委員会が作成する「すこやかファイル」を有効に活用したいとの提案もあった。担当医からは、初めて参加した会議で、けんたくんが各関係機関の支援を受けながら成長していることを実感させられる機会であったとの感想をいただいている。

4月入学後のけんたくんの様子についての報告会(個別支援会議)を開催することとして閉会。

4. まとめにかえて

鹿児島市障害者自立支援協議会がスタートしたものの、具体的な個別支援会議については、開催が皆無であった。今回の研究会にて「教育と福祉の連携」に絞って開催された複数回の会議は、今後、個別支援会議として継続的に開かれるべきである、ということが、会議参加者に認識してもらえたことが大きな成果である。

今後、個別支援会議ならびに自立支援協議会が洗練され、地域で支えあうシステムとして確立されるよう、関係機関一丸となって取り組んでいきたい。

